

ゲート前抗議 古賀さん激励

辺野古沖 作業続く

【名護】市民らによる新基地建設工事への抗議が続く名護市辺野古の米軍キャンプ・シユワブゲート前を19日、元経済産業省官僚の古賀茂明さんが訪れた。古賀さんは18日に宜野湾市であったシンポジウムに参加。辺野古のゲート前を訪れるのは今回が初めてだという。市民らによるスピーチやカチャーシーを舞い踊る様子を見つめ、拍手を送



った。

シンポジウムで目にした沖縄県民の表情に「沖縄の人がだまされるはずがないと確信した」と話す古賀さん。また、安保関連法案の強行採決などに触れ「声を上げてでも無視され、権利が奪われる。これまで（基地問題などについて）人ごとだと思っていた本土の人たちが、ようやく沖縄も同じような状況を強いられてきたことに気が付いた」と指摘。「この闘いが永遠に続くと思うかもしれないが、確実に前進しており、大きなステップにつながっている」と激励した。

また、工所用ゲート前では、未明から市民ら約100人が、工事車両とみられるトラックの進入を阻止しようとして座り込んだが、約200人の機動隊に強制排除された。

辺野古沖では、長島付近の新たな地点で掘削作業が

「大きなステップにつながっている」と激励する古賀茂明さん（右）19日、名護市辺野古の米軍キャンプ・シユワブゲート前

確認された。午前9時44分ごろ、作業船1隻から掘削棒が海に下ろされた。近くにあるスパット台船1基も、掘削棒を海に下ろしているのが確認された。

